

※右の展示作品や入会に関する問い合わせ先は、
越谷市郷土研究会の谷岡隆夫（当会会長・☎962-7527）までお願いします。

番号	題名	頁	出品者名	住所
8	増林の古代蓮	28・29	山本 泰秀	増林二丁目
7	新町八幡神社由緒	25・27	水上 清	宮本町五丁目
6	昔の大竹地域の田園風景	22・24	谷岡 隆夫	宮本町三丁目
5	蒲生尋常高等小学校の「幻の応援歌」	21	高橋 正澄	蒲生西町
4	越谷市内の寺院の梵鐘——銘文——	18・20	菅波 昌夫	南越谷一丁目
3	薬の文化、とうかんやのわらでっばう	18	金岡由紀子	大房
2	大吉の徳蔵寺と筆子中	17	鈴木 進志	大吉
1	荻島地区内の江戸時代の石仏	1・16	加藤 幸一	春日部市大枝

第34回 市民文化祭の 越谷市郷土研究会展示作品リスト

平成14年度

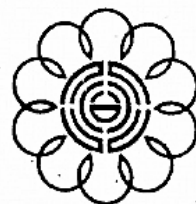
第34回 越谷市民文化祭

平成14年11月21日（木）～24日（日）

10:00～19:00（最終日は18:00）

越谷市郷土研究会展示部門出品紹介

於 越谷コミュニティセンター 大ホールホワイエ



平成15年度入会申込方法

※郷土研究会の役員までお申し出下さい。その場でご入会できます。

※なお、後日ご入会する場合は、次のとおりです。

住所、氏名、電話番号をご記入のうえ、

ハガキや電話・FAXでの申し込み先は、

☎343-0806 越谷市宮本町3-117-8

☎048-962-7527 FAX 048-962-7527

谷岡 隆夫（会長）

会費2,000円の郵便振替先は、

口座番号 00120-4-164083 越谷市郷土研究会

※ご入会されますと翌月より平成16年3月まで本会で行われるさまざまなイベントのご案内のおハガキを発送致します。

◇周りの10個の輪は、昭和29年11月3日に合併した十町村である

二町八ヶ村（「越谷町」の誕生）をあらわす。

十町村とは、越ヶ谷町・大沢町・桜井村・新方村・増林村・大袋村・

荻島村・出羽村・蒲生村・大相模村をさす。

◇中央部周りのデザインは、カタカナの『コ』を4個集めたもの。

つまり、越谷の『越』（「コ4」）を意味する。

◇中心部のデザインは越谷の『谷』の文字を図案化したものである。

◇昭和30年11月3日には、草加町に合併していた伊原、麦塚、上谷が越谷町に入る。

◇越谷町は、昭和33年11月3日に市に昇格し、越谷市となる。

1. 萩島地区内の江戸時代の石仏

加藤 幸一

萩島地区には、江戸時代は野島村・小曾川村・砂原村・萩島村・西新井村・民島村の七箇村があった。今回はこれら七箇村の石仏について調査をおこなった。調査の詳細な記録については萩島の浄山寺、南萩島の玉泉院や西新井の西教院に資料を蔵かせていただくのでご請求（資料）願いたい。

なお、平成五年から開始した元荒川以北の江戸期の村々の石仏調査記録は、西方の大聖寺（大聖様のお不動様）内の資料室（資料）及び各寺の立派な書庫に保管されている。次に、紙面の都合で主なものだけを取り上げることとする。

旧野島村

- (1) 浄山寺
- 浄山寺は、野島の地蔵尊として有名で、片目地蔵伝説や巨大な開口などがある。浄山寺の山門には、大きな地蔵菩薩像が「基立」している（図1と2）。また、境内には「普門供養塔」（図3）といって、観音菩薩を祀った記念に建てた石塔がある。
- (2) 久伊豆神社
- 久伊豆神社は、主に元荒川と横瀬川に挟まれた地域にあられる神社である。野島の久伊豆神社は野島の鎮守である。ここに境が六本もある。庚申様と鬼、見廻・聞か娘・言わ娘の三娘は、娘達の如く刻まれた庚申塔（図4）が見られる。

旧小曾川村

- (1) 久伊豆神社
- 小曾川村の鎮守である。ここに武州御神山（東京西部）に関する山岳信仰の石塔（図2）がある。開元一四で盛んに信仰されていた。
- (2) 久伊豆神社と森蔵寺跡地
- ここに立派な庚申塔が四基ほどある。
- (3) 田家（小曾川三〇）路傍
- 六十六部回廊（図11）がある。側面に刻まれた文によると、小曾川村に住む斎藤徳右衛門が宝暦二年（一七六二）に日本国内の六十六箇国にある神社仏閣を回り始め、書き写した六十六部の経巻を納めたという。その記念に建立されたものである。
- (4) 中島家（小曾川二六）そば共同墓地
- この墓地に鳥小四郎と呼ばれる墓石（図12）がある。墓石の上部に「鳥」「八」「田」の

境内には、六地藏菩薩像（図1）、六十六部回廊（図11）、光明真言の文字が四形に並んで刻まれている。光明真言は密教で唱える呪文で、これを唱えれば一切の罪業が除かれるという。（8）は省略

- (5) 野島自治会館
- 萩島村の一部は、ここ元荒川の左岸にもある。元荒川はかつては萩山村を取り囲むようにして流れていたが、萩山村と萩山村とは陸続きであった。しかし、元荒川が真つすに流れるやうに、宝永三年（一七〇六）頃に萩島村北側の野合に新川を作り、萩島村の一部が新川によって分断されたのである。萩島村野合は俗に「切」と呼び、内野合（元荒川右側）と外野合（左側）とに分かれた。現在の「切」の西側の河岸の地域である。
- 元荒川左岸の野合の野合自治会館には、江戸時代「馬頭院」と呼ばれた寺院があり、ここに庚申塔など貴重な石仏が見られる。
- (10) 野島自治会館
- この地は、江戸時代に「西教院」と呼ばれた寺院があった所である。

- ここにも庚申塔石仏がある。図30は、追するべく兼ねた猫田屋の神道系庚申塔である。
- (11) 中相集会所
- ここは、明王院と呼ばれた寺院跡地である。地元では、なまて「みょういん」と呼んでいる。本尊は不動明王であった。果ては西隣のにお堂には、不動明王像が「体安置」されている。ここにも貴重な庚申塔（図32・36）が整備されて並んで立っている。
- (12) (13) は省略
- (14) 「ひやみず」共同墓地
- ここには六地藏菩薩像（図39）、観音菩薩像（図40）や近隣の路傍には庚申塔と通礼塔（図四三）三箇所・四箇八八箇所・秩父三十四箇所・坂田三十三箇所の合計百八十八箇所、観音様を巡礼した記念に建立されたものがある。

旧小曾川村

- (1) 根蔵の稲荷神社
- このあたりは、根蔵と呼ばれる小字の地域で、かつての本村の中心であったと思われる。稲荷神社は淡谷村の鎮守である。図1は稲荷様の文字塔である。
- (2) 根蔵自治会館
- ここは、江戸時代光明院と呼ばれた寺院があった所である。ここにも庚申塔など貴重な石仏が多く見られる。

三つの文字を組み合わせた田が刻まれている。野島の浄山寺など、曹洞宗寺院に見られる。

旧砂原村

- (1) 元荒川土手道
- 宝暦二年（一七五二）建立の、境が六本あって頃に馬がつかうと伝説観音様の石仏（図1）がある。農耕馬に関する信仰上の石仏である。
- (2) 松沢家（砂原八五〇）そば路傍
- 「石蔵」土手道、左衛門道と通じるべが刻まれた庚申塔（図2）がある。（3）は省略
- (4) 久伊豆神社
- 砂原の鎮守である。ここにも通じるべが刻まれた庚申塔（図2）がある。この庚申塔は神道系で、「猫田屋」を築いている。

旧北萩村

- 現在、この地域は「南萩島」と「南」を付けて呼んでいる。江戸時代は「萩島村」と呼んでいた。明治十二年（一八七九）に行われた郡制にあたり、郡内に同一の村名がある場合は「北萩島村」に、南にあるのが萩島村は「南萩島村」と名付けられた。
- 同様に萩島村の南にある「淡谷村」も「北淡谷村」となった。（1）（3）は省略
- (1) 稲荷神社
- 図4は、大徳文字塔である。大徳とは、神社で六月と十月の晦日に、万民の罪をけがれを赦った神事のことである。
- (2) 中島家（南萩島二〇）そば出陣地
- 四角パイプの元荒川橋から県道河合線と谷線の間、文政大学バス停にかけて、南北に平行に走っている「土手道」と呼ばれる道がある。この土手道を境に西側が堤根、東側（元荒川側）が山（出陣）と呼ばれている。出陣は、かつての元荒川の河川敷であった。
- 石仏石塔は、中島家（南萩島二〇）そばの土手道から東側に降りた山側にある。この場所を地元では「山」呼んでいる。図9は寛文九年（一六六九）に建立された初期の庚申塔で、下部に三娘が刻まれている。堤根山王神社の使いともいわれている。
- (3) 大熊家（南萩島八五六）路傍
- 路傍の地には「同こう越ヶ谷、右左殿寺、左野島地蔵」と刻まれた道標（図11）がある。
- (7) 玉泉院
- 玉泉院は武蔵国八十八箇所（松平大師霊場）の一つで、三十二番目にあたる寺院である。

旧西新井村

- (1) 大石橋北側の山王社
- ここに延宝六年（一六八八）の庚申塔（図1）がある。山王社の本尊となっている。
- (2) 西教院
- 本堂前には、西新井村の名主が建立した菩薩の句碑があり、墓地内には、その代々の名主の菩薩家墓所（図11）がある。
- 図7は、徳本行春の「南無阿弥陀仏」と刻まれた名主塔である。徳本行春とは、宝暦八年（一七五八）の「和歌山」の生まれで、念仏を広め活躍した浄土宗の代表的な念仏僧である。各地に独特の書体による名主塔が多く残されている。図12と図13は、主尊が地蔵であったり、阿彌陀であったりしてまだ一定していない頃のとて貴重な江戸初期の庚申塔である。後世になると主尊は菩薩金剛や猫田屋になる。
- (3) 田村家（西新井六九〇）道傍反対側
- 図15の地蔵には後述がある。戦国時代末期、岩槻城が豊臣勢によって攻められたため、城から西新井の喜慶家に落ちのびようした城主の妻が、早稲の月夜を残して沼に身投げした。その母の遺骸を埋めた塔であるという。岩月丸は、後に喜慶家の二代目を継ぐ。
- (4) 西新井自治会館
- ここは、西教院の末寺である。三層の石塔と呼ばれた江戸時代の中院跡地である。
- ここに巨大な名主塔（図16）がある。
- (5) 石神井神社
- ここには、庚申塔（図19・20）や豊長姫命の文字塔がある。豊長姫命は、庶民の間で長寿の神様として信仰されていた神様である。

旧民島村

- (1) 稲荷神社
- 民島村の鎮守である。現在は、三ツ木家（長島二一八）のそばに移転（宝暦十四年四月）されているが、もとは民島の北西側の内山家（長島五〇一）の西側に民島の集会所とともであった。移転する前の稲荷社の近くには江戸時代には萬壽寺という寺もあった。
- 図1は六十六部回廊で、日本国内の六十六箇国に経巻を納めたり回った記念に建立されたものである。図1から4までの石仏は、もとの稲荷神社があった所から平成十四年四月に移転してきたものである。

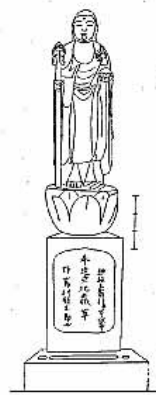
旧野島村

1. 野島
丸彫り地藏菩薩像



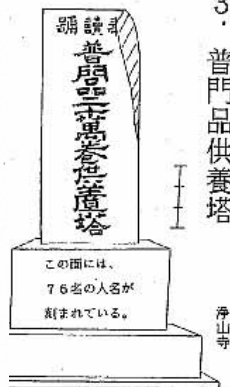
浄山寺

2. 野島
丸彫り地藏菩薩像



浄山寺

3. 野島
普門品供養塔



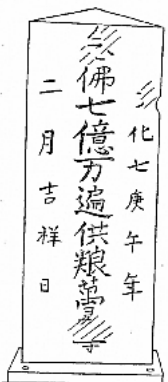
浄山寺

4. 小曾川
地藏菩薩像付き百堂巡礼塔



慈眼寺跡

5. 小曾川
名号塔



慈眼寺跡

6. 小曾川
青面金剛像庚申塔



慈眼寺跡

野島
榛名山権現・雷電宮文字塔



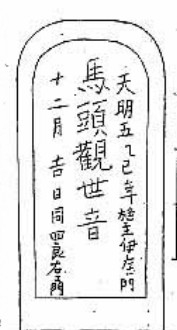
久伊豆神社

5. 野島
青面金剛像庚申塔



久伊豆神社

6. 野島
馬頭観音文字塔



野口家(野島一八〇)路傍

7. 小曾川
青面金剛像庚申塔



慈眼寺跡

8. 小曾川
如意輪観音菩薩像



慈眼寺跡

9. 小曾川
青面金剛像庚申塔



慈眼寺跡

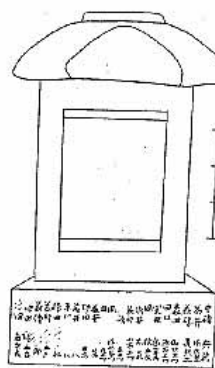
旧小曾川村

1. 小曾川
疱神文字塔



久伊豆神社

2. 小曾川
御嶽山文字塔



久伊豆神社

3. 小曾川
金毘羅権現文字塔



久伊豆神社

10. 小曾川
青面金剛像庚申塔



慈眼寺跡

11. 小曾川
六十六部回國塔



田口家(小曾川三〇)路傍

12. 小曾川
鳥八白の墓塔



13. 青面金剛像庚申塔



14. 青面金剛像庚申塔



15. 秩父講供養塔



13. 青面金剛像庚申塔



14. 青面金剛像庚申塔



15. 秩父講供養塔



旧砂原村

1. 馬頭観音菩薩像



2. 道標付き青面金剛像庚申塔



3. 阿弥陀像付き百堂巡礼塔



旧砂原村

1. 馬頭観音菩薩像



2. 道標付き青面金剛像庚申塔



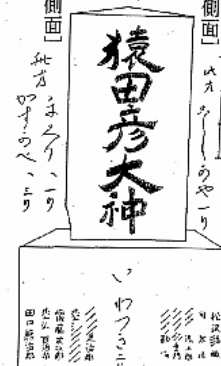
3. 阿弥陀像付き百堂巡礼塔



4. 青面金剛像庚申塔



5. 道標付き猿田彦文字庚申塔



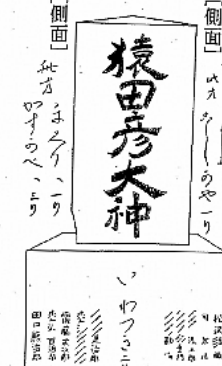
6. 青面金剛像庚申塔



4. 青面金剛像庚申塔



5. 道標付き猿田彦文字庚申塔



6. 青面金剛像庚申塔



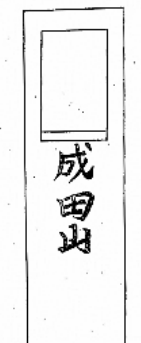
7. 青面金剛像庚申塔

久伊豆神社



10. 不動明王像

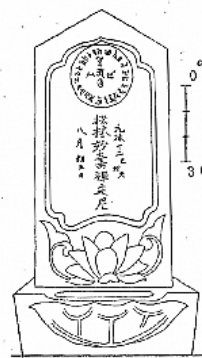
聖助院跡墓地



旧荻島村

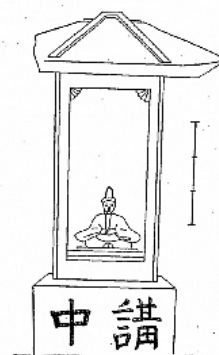
1. 光明真言曼荼羅塔

会田家(南萩島八八)個人墓地



8. 天神像

久伊豆神社



2. 文字庚申塔

会田家(南萩島八八)跡



9. 地藏像付き石橋供養塔

聖助院跡墓地



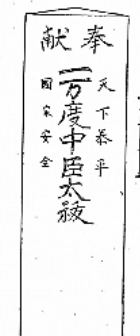
12. 六地藏塔

角堂切跡地



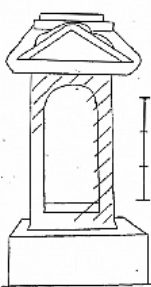
4. 大祓文字塔

福智神社



7. 主尊不明文字塔

福智神社



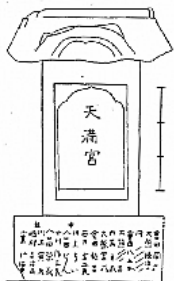
10. 青面金剛像庚申塔

福智神社



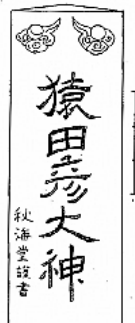
5. 天満宮文字塔

福智神社



8. 猿田彦文字庚申塔

福智神社



11. 弁財天文字塔

中島家(南萩島二二〇)そば出津地



6. 小御嶽大神文字塔

福智神社



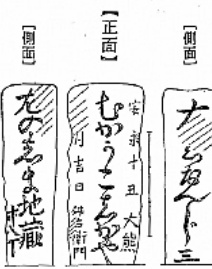
9. 文字庚申塔

中島家(南萩島二二〇)そば出津地



12. 道標石塔

大瀬家(南萩島八八五)土手道脇傍



13

一石六地藏菩薩像

玉泉院



14

六地藏像付き六十六部回國塔

三義院



15

光明真言曼陀羅塔

玉泉院



22

文字庚申塔

野合目治会館

青面金剛
庚申年
野合目治会館



23

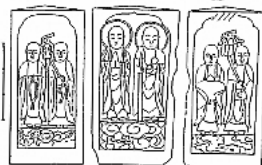
六地藏塔

〔側面〕

〔正面〕

〔側面〕

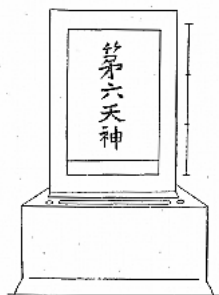
野合目治会館



24

『第六天』文字塔

野合目治会館



16

六地藏塔

会田家南院藏三六五個人



17

地藏菩薩像

野合目治会館



18

文字庚申塔

野合目治会館



25

青面金剛像庚申塔

野中昌徳



26

文字庚申塔

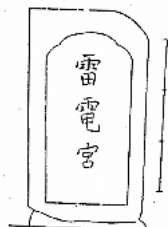
野中昌徳



27

雷電宮文字塔

野中昌徳



19

青面金剛像庚申塔

野合目治会館



20

青面金剛像庚申塔

野合目治会館



21

青面金剛像庚申塔

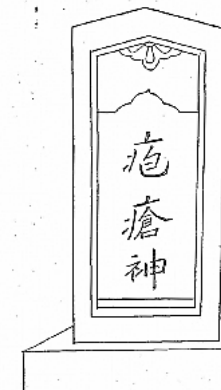
野合目治会館



28

疱瘡神文字塔

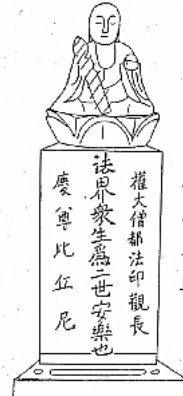
野中昌徳



29

地藏菩薩座像

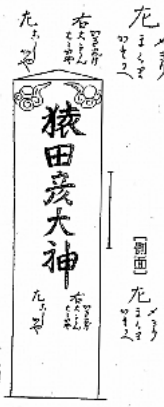
野中昌徳

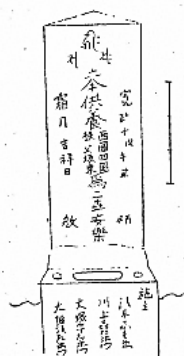


30

猿田彦文字庚申塔

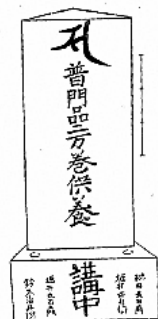
野中昌徳





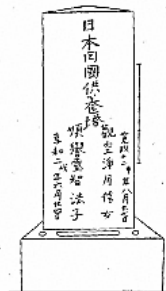
42 百八十八箇所巡礼塔

「ひやみず」共同墓地



3 普門品供養塔

根郷自治会館



6 六十六部回国塔

根郷自治会館



41 青面金剛像庚申塔

「ひやみず」共同墓地



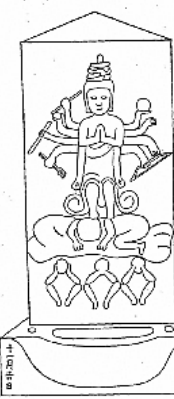
2 文字庚申塔

根郷自治会館



1 稲荷大明神文字塔

根郷の稲荷神社



4 青面金剛像庚申塔

根郷自治会館



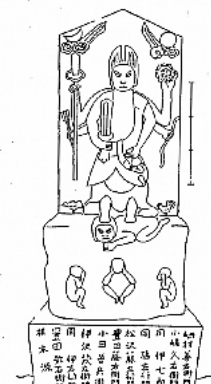
40 観音像付き念仏供養塔

「ひやみず」共同墓地



33 青面金剛像庚申塔

中組集会所



36 青面金剛像庚申塔

中組集会所



39 一石六地藏菩薩像

「ひやみず」共同墓地



38 文字庚申塔

根郷家南院第一四四番地



35 青面金剛像庚申塔

中組集会所



34 青面金剛像庚申塔

中組集会所



37 青面金剛像庚申塔

鈴木家南院第一三八二番地



31 六地藏塔

野田自治会館

32 道標付き猿田彦文字庚申塔

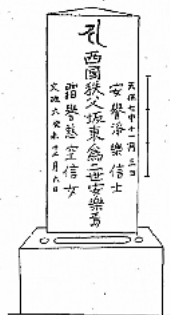
中組集会所



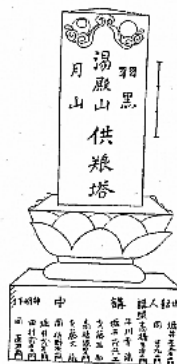
33 青面金剛像庚申塔

中組集会所

7. 後
百箇所巡礼塔 観音目録金銀



8. 後
出羽三山文字塔 北前の稲荷神社



9. 後
青面金剛像庚申塔 北前の稲荷神社



6. 西
不動明王三尊像 西教院



7. 西
徳本行者の名号塔 西教院



8. 西
地藏菩薩像 西教院

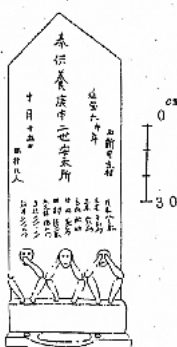


10. 後
不動明王三尊像 北前の稲荷神社

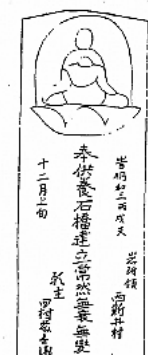


旧西新井村

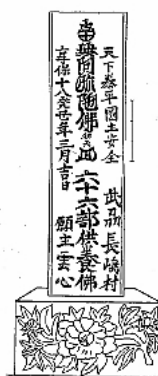
1. 西
文字庚申塔 大石橋北側の山王社



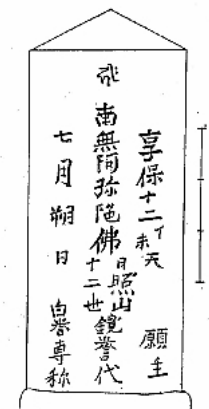
2. 西
石橋供養塔 大石橋北側の山王社



9. 西
名号塔 西教院



10. 西
名号塔 西教院



11. 西
観音菩薩像 西教院



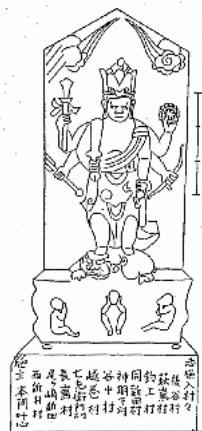
3. 西
青面金剛像庚申塔 大石橋北側の山王社



4. 西
馬頭観音像付き庚申塔 西教院



5. 西
青面金剛像庚申塔 西教院



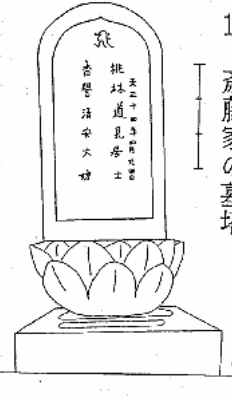
12. 西
地藏像付き庚申塔 西教院



13. 西
阿弥陀如来像付き庚申塔 西教院



14. 西
斎藤家の墓塔 西教院





3
長

一石六地藏菩薩像

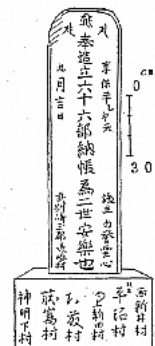
稲荷神社



2
長

青面金剛像庚申塔

稲荷神社



1
長

六十六部回國塔

稲荷神社

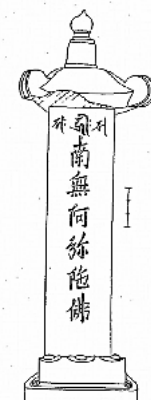
旧長島村



17
新

文字庚申塔

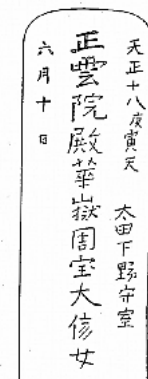
西新井自治会館



16
新

名号塔

西新井自治会館



15
新

「椿割塚」の墓塔

田村家[西新井六九〇]道路反対側

荻島地区の石仏案内図

野島村

- (1) 浄山寺 No. 1~3
- (2) 久伊豆神社 No. 4~5
- (3) 野口家[野島180]路傍 No. 6

小曾川村

- (1) 久伊豆神社 No. 1~3
- (2) 慈眼寺跡地 No. 4~10
- (3) 田口家[小曾川130]路傍 No. 11
- (4) 中島家[小曾川126]そば共同墓地 No. 12
- (5) 中島家[小曾川123-1]路傍 No. 13
- (6) 藤井家[小曾川142]そば地 No. 14~15

砂原村

- (1) 元荒川土手道 No. 1
- (2) 松原家[砂原850-2]そば路傍 No. 2~3
- (3) 平野家[砂原775]路傍 No. 4
- (4) 久伊豆神社 No. 5~8
- (5) 聖勤院跡地 No. 9~11
- (6) 角笠坊跡地 No. 12

荻島村

- (1) 金田家[南荻島86]個人墓地 No. 1
- (2) 金田家[南荻島87]路傍 No. 2
- (3) 稲荷神社参道入口 No. 3
- (4) 稲荷神社 No. 4~8
- (5) 中島家[南荻島210]そば山神地 No. 9~11
- (6) 大藤家[南荻島385]土手道路傍 No. 12
- (7) 玉泉院 No. 13~15
- (8) 金田家[南荻島365] No. 16
- (9) 野中自治会館 No. 17~24
- (10) 野中自治会館 No. 25~31
- (11) 中組集会所 No. 32~36
- (12) 鈴木家[南荻島1382]路傍 No. 37
- (13) 根岸家[南荻島1145]西側路傍 No. 38
- (14) 「ひやみず」共同墓地 No. 39~42

後谷村

- (1) 根郷の稲荷神社 No. 1
- (2) 根郷自治会館 No. 2~7
- (3) 北前川の稲荷神社 No. 8~10

西新井村

- (1) 大石福北側の山王社 No. 1~3
- (2) 西教院 No. 4~14
- (3) 田村家[西新井690]道路反対側 No. 15
- (4) 西新井自治会館 No. 16~18
- (5) 石神井神社 No. 19~22
- (6) 西新井自治会館 No. 23

長島村

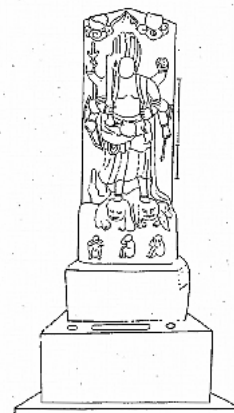
- (1) 稲荷神社 No. 1~5



4
長

地藏菩薩像

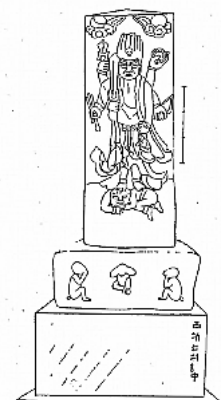
稲荷神社



20
新

青面金剛像庚申塔

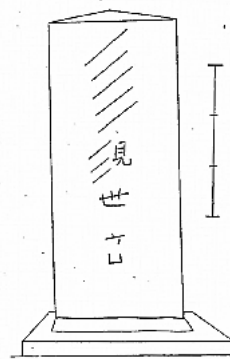
石神井神社



19
新

青面金剛像庚申塔

石神井神社



18
新

馬頭観音文字塔

西新井自治会館



23
新

僧侶の墓塔

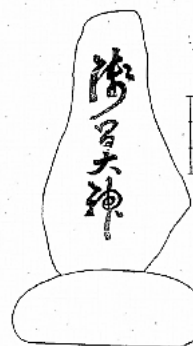
西新井自治会館



22
新

「磐長姫命」文字塔

石神井神社

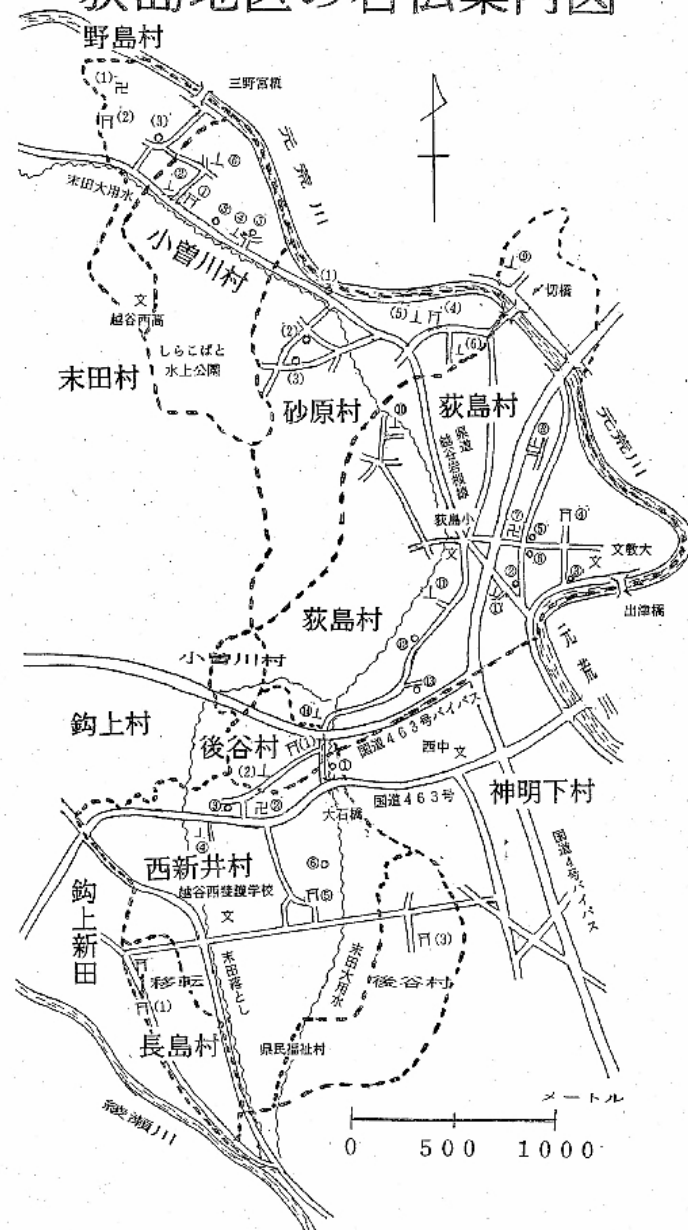


21
新

「浅間大神」文字塔

石神井神社

荻島地区の石仏案内図



2 徳蔵寺と筆子中

鈴木進志

市内野田街道と交差する古利根川の手前で新方橋を渡り、北の方へ五百メートルほど行くと、左側に大吉の徳蔵寺がある。

この寺は昔、大吉村や隣接村々の農民や商人などの有志の子女が、いわゆる読み書きそろばんや、日常の手習いことを学んだ寺子屋だったといわれている。

新装なった山門を入ると、左側奥に歴代僧侶の墓石が整然と並び、その一隅に筆子中と台石に彫られた墓塔が建っている。

墓塔正面には当寺第十二世の法号が意図院青山光永居士と彫られ、中央と下段の台石の左右両面には、百名近い筆子の名前が各自の村名に続いて隙間なく刻まれている。

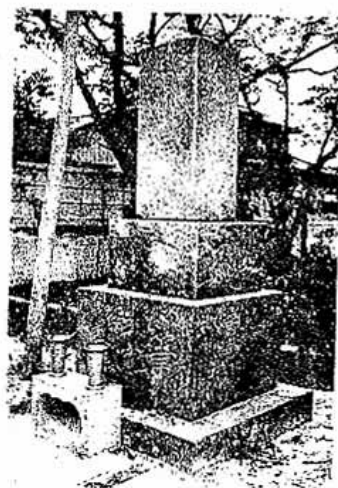
この僧侶は当時の廃仏毀釈といわれる仏教界への大弾圧に遭遇して還俗している。寺子屋に通う子女教育のために生涯を捧げ、情熱的に指導したようである。

遺徳を偲んで寺子屋の筆子（生徒）ら関係者によって、墓塔は建立されたのであろう。

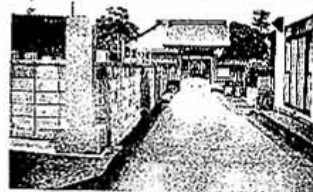
明治二年十一月初三日と記されてある。（明治二年）その後、明治五年八月、時の政府の「学制」頒布により、全国的に小学校が設立・普及されるに伴い、この寺子屋は自ずと顧みられなくなった。

寺子屋の開塾時期や教育内容を示す資料は、その後の寺の火災により惜しくも不明となり、墓塔のみ残されている。

（鈴木進志提供）



筆子中墓塔



徳蔵寺入口



子供用の文机

「とうかんやのわらでっぼう」

金岡 由紀子

「とうかんやのわらでっぼう」は、経験した人は「なつかしい」となるが、他所者には不思議な行事である。

戦前までの農家は自給自足であった。「とうかんやのわらでっぼう」の聞き取り調査をしていて気づいた。

●しめ飾り

秋に穫れた稲のわらの一部を、雨にあてずに納屋の片隅に取り置きをする。

青さと香りの残るわらで正月の「しめ飾り」にして神の結界をつくる。

教えてくれたのは、東大沢のOさんだった。

●みそ

大豆の収穫が終わったころ、農家の前庭で大豆を煮る。

大量の「みそ」の仕込みである。

塩と米こうじでこねられた「みそ玉」がカメの中へ打ちつけられる。

別の鍋で納豆用の豆を煮る。わらづとに入れて適温の倉の中で発酵させる。……………

熊谷出身のKさん宅の「みそ、納豆」づくりである。

わらは、荒縄・わらじ・むしろ・俵などになった。

かまどのたき付けにもなったであろう。

形を変えて人々の暮らしの中に役立って来たのが「わら」であった。

「とうかんやのわらでっぼう」は、「わら文化」の子どもの遊びと、とらえると興味は尽きない。

4 越谷市内の寺院の梵鐘

――銘文――

菅波昌夫

所在地	寺院名	宗 派	今の鐘の鋳造年	供出鐘の鋳造年
1 薮 生	清蔵院	真言宗	昭和53・3	不 明
2 登 戸	報土院	浄土宗	昭和49・8	不 明
3 川 柳	成就院	真言宗	平成10・5	不 明
4 大相模	大聖寺	真言宗	昭和60・11	明和3(1766)
5 東越谷	東福寺	真言宗	昭和53・3	寛永3(1626)
6 越ヶ谷	天徳寺	浄土宗	昭和40・10	不 明
7 大 松	清浄院	浄土宗	昭和40・3	宝永7(1710)
8 大 泊	安国寺	浄土宗	昭和61・6	元禄年間1688~1703
9 増 林	勝林寺	曹洞宗	昭和46・3	不 明
10 増 森	宝正院	真言宗	昭和59・3	文政年間1818~1829
11 野 島	浄山寺	曹洞宗	昭和33・4	延享3(1746)
12 大 沢	照光院	浄土宗	昭和43・4	不 明
13 西新井	西教院	浄土宗	昭和54・10	不 明

※9の増林勝林寺の「供出鐘の鋳造年」は、山本泰秀氏によると勝林寺蔵の文書より、天明八年(一七八八)の製造で、口径は2尺2寸、金額は二十五両である。

1 清生土 清蔵院

慈願之種 (攝座)
(花)

(飛天像)

(花)

基院山清蔵院

(花)

為光社代々菩提

(花)

南無十一面觀音菩薩

(攝座)

南無觀音菩薩

(花)

昭和五十二年三月吉祥

(花)

2 改二戸 柳土院

南無阿彌陀佛

(攝座)

(飛天像)

(花)

願此種菩提法界

(花)

秋葉園開基

(花)

柳身山柳土院

(攝座)

(飛天像)

(花)

三修院正生安養

(花)

一切衆生成正覺

(花)

(飛天像)

(花)

3 川柳 成蔵院

南無三尊菩薩

(攝座)

成光山 成蔵院

(花)

第二十六世 恩格代

(花)

平政十年三月吉日

(花)

南無大願菩薩金剛

(花)

(飛天像)

(花)

南無觀音菩薩

(花)

(飛天像)

(花)

南無觀音菩薩

(花)

4 大相模 大聖寺

南無大聖不動明王 (攝座)

(飛天像) (花) (花)

三尊菩薩

當山梵刹は昭和三年抄遷すし

のがあつたが第二次世界大戦時

に於て國家存亡の危機にあたり

供出の止むなきに至るあたかも

昭和五十九年春遷す大願入

定寺什百五十年御遷すにあたり

願此建立を契機種々及び十

方百餘の有志相集しここに完

遂せしものなり

一打遷す 富嶺衆生

校三昇告 樹見菩薩

南無妙天菩薩 (攝座)

高祖弘法大師

香祥百五拾年御遷す記念

施主 當山僧侶一同

十方有縁之有志

興大山大聖寺

第四拾世弘法代

昭和六十年十一月吉日佛道

南無大願菩薩金剛

南無大願菩薩金剛

南無大願菩薩金剛

南無大願菩薩金剛

6 越ヶ谷 王天寺

南無阿彌陀佛 仏子 (攝座)

(飛天像) (花)

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

南無觀音菩薩

8 大泊 安国寺

(銘文なし)

(撫座)

願主

宣通社法書集阿在心溪洞院弘大和尚

(獅子)

越谷市大泊大龍山東光院安国寺第廿二世

(花)

寄進

町田龍弘

(獅子)

昭和六十一年六月吉日

(獅子)

製作者元秀堂謹製

(獅子)

(飛天像)

(獅子)

南無阿弥陀佛

(撫座)

(獅子)

(飛天像)

(獅子)

三界萬靈 (蓮華座)

(獅子)

大龍山安国寺には昔つて第十二世花
著上人代の元禄年間御造りになる
れありてくわむつとて親し
れきたりしが先の太平洋戦争に際し
昭和十七年十一月二十五日献納せし
められたり爾來四拾有餘年を經本堂
再建を機に第廿二世法寶殿弘亮院し
信心厚き檀越後の寄進により茲に新
たに梵像を撰製し永く護持法界を
祈願せんとするものなり

(獅子)

(花)

(飛天像)

(獅子)

(花)

11 野島 淨山寺

第五山南野島五影鎮谷町大字野島
曹洞宗野島淨山寺二十五世明徹院代

(撫座)

(獅子)が全体に書かれ
判読出来ず

(獅子)

昭和三十三年四月二十四日

(獅子)

序

(獅子)

延享三年御造り梵鐘ハ大

(獅子)

東並殺ノ機ノ二條イ昭和

(獅子)

十八年一月十日二十四日

(獅子)

青雲院代出タ余儀ナ

(獅子)

クセシラレ開來十有五年

(花)

ヲ經タリ今御開闢千百年

(獅子)

開闢ヲ記念シ檀越並ニ

(獅子)

特志者ノ寄進ニヨリ富山ニ

(獅子)

海邊ス其(わがわ)クハ梵長ヘニ

(獅子)

願出ノ夢ヲ覺シ無告ノ説

(獅子)

法功徳無辺ナランコトヲ

(獅子)

南無延命地藏菩薩 (蓮華座)

(撫座)

梵鐘再興院人

(獅子)

住持 石井信徳

(獅子)

總代 田口和太郎

(獅子)

世話人 萬野高三郎

(花)

坂巻保太郎

(獅子)

田口和太郎

(獅子)

12 大沢 照光院

本尊阿弥陀如来 (撫座)

(銘文なし)

願主 梵

(獅子)

二十七日住持

(花)

延田庵秀

(獅子)

(銘文なし)

(獅子)

(銘文なし)

(獅子)

(銘文なし)

(獅子)

(銘文なし)

(獅子)

(銘文なし)

(獅子)

(銘文なし)

(獅子)

昭和四十三年四月吉日

(獅子)

寄進先總代々供養為

(花)

東京寺表

(獅子)

正木総本店

(花)

四代

(獅子)

施主平野正吉

(獅子)

雲いッ

(獅子)

13 西新井 西教院

南無阿弥陀佛

(撫座)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

(銘文なし)

昭和三十六・七年頃の大竹の風景

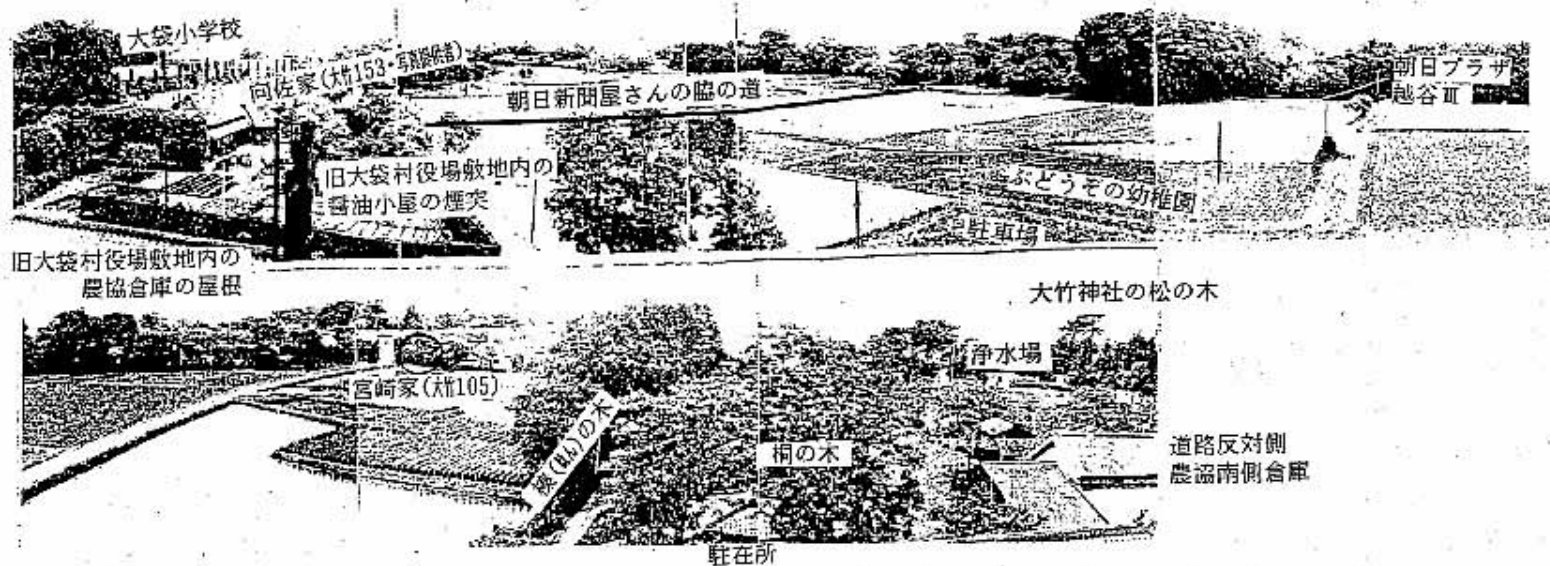
旧大袋村役場（現、大袋公民館・J A大袋支店）敷地内のかつての「火の見櫓」より大竹地域を見る

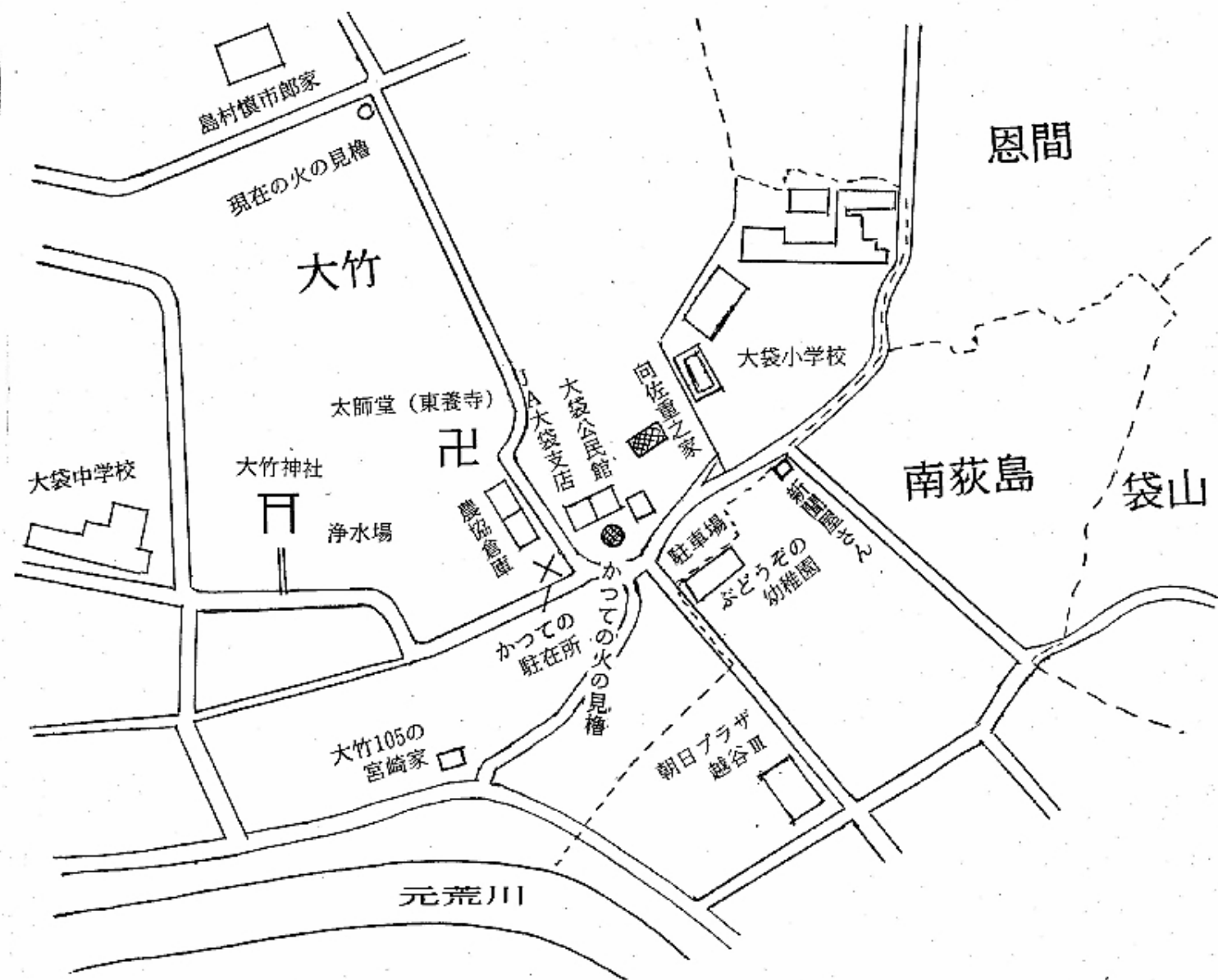
写真提供者：向佐重之
(大竹153)

「火の見櫓」より南東方面を見る

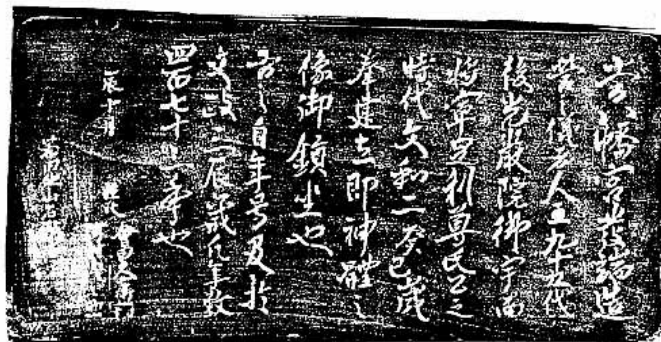


「火の見櫓」より西方面を見る





②文政三年の木版



當八幡宮發端造
營之儀者人王九十九代
後光嚴院御宇西
將軍足利尊氏公之
時代文和二癸巳歲
奉建立即神體之
像御鎮座也
右之自年号及於
文政三辰歲凡年數
四百七十三率也
辰十月 謹□會田久右衛門
河村淺之助
□田他山石□書

縦33センチ、横61センチ

當八幡宮の發端、造
營の儀は、人王九十九代
御光嚴院御宇、西（京都）
將軍足利尊氏公の
時代、文和二癸巳（一三五三）歲、
建立奉る、即ち神体の
像御鎮座なり、
右の年号より、及び
文政三辰歲に於ける凡その年數
四百七十三年なり

（以上の解説は鈴木秀俊氏）

協力者 佐藤春敏氏

8 増林の古代蓮

山本 泰 秀

増林の地に盛夏になると七月中旬から八月中旬までの間に次々と淡い紅色の蓮の花が開花する。この花は永い眠りから目覚め、毎年夏になると端正で大型の美しい花を咲かせるのである。

場所は、増林の護郷（もりさと）神社の前方、吉田大氏所有の休耕田（大字増林字根道一一四四番地）である。この地は古くは真言宗の福寿院の境内に隣接したところで、歴史の古さを感じる土地柄といえよう。寺院は明治になって廃寺となり、現在はわずかな墓地がその面影を残すのみである。

増林地域は地盤沈下が激しく、農業用灌漑用水路の不等沈下が起きて用水不足となり、干ばつ地の面積が年々拡大されていった。そこで、昭和五十二年（一九七七）、増林全域にパイプライン敷設工事が行われた。これは地下八十センチまで掘り下げ、パイプを敷設する工事であった。この時、地中にあった蓮の実（種）

が傷つけられて地表近くまで掘り出されたので、発芽したとみられる。最初（昭和五十二年）は数本が東の角地から生え、以後、年を追うごとに徐々に全面に広がっていったと言う。

私は平成十三年（二〇〇一）になって横四十センチ、長さ四十八センチの発泡スチロールの箱の中で、この休耕田から採集しておいた種からの栽培を試みた。種は種皮が堅く、吸水にくく、発芽の可能性が低いと思ひ、種皮のとがった部分を平ヤスリで削った種が発芽し、春から秋までの間に根茎は二メートルの長さにまで達したのである。

この年の八月、この休耕田の蓮を埼玉純真女子短期大学の卜澤美久氏に調査していただいた。葉の特徴としては、葉先に二箇所（トゲ）があり、花弁の数が十一から十三枚で、葉の開く角度が約百二十度であった。古代蓮特有の特徴がみられる在来野生種であると結論づけられた。

越谷市郷土研究会に入ってみませんか！

越谷市郷土研究会とは (平成14年11月末現在)

◎史跡めぐりなどのイベントを毎月実施し、また、毎年、越谷市民まつり・越谷市民文化祭・こしがや文化芸術祭に展示部門で参加しております。

◎当会は、昭和40年(1965)3月に発足しました。

以後地道に活動し、現在は会員数が280名程の大所帯となりました。

史跡めぐりは308回を数えるまでになりました。

◎当会の平成12年以降の主なイベントをあげますと次のとおりです。

平成12年1月30日(日) 講師 元埼玉県立さきたま資料館長大村進氏

「創立35周年記念講演会—郷土研究—」(後援は越谷市教育委員会・文芸)

平成12年9月2日(土) 「歴史講座」を開始(平成12年度・全5回)

平成13年8月26日(日) 奥州街道400年・記念歴史講演会(越谷市立)

平成13年9月24日(月) 奥州街道400年・記念史跡めぐり(証・観望)

以後、「南越谷～北越谷」(10月)、「北越谷～せんげん台」(11月)と実施

平成14年3月24日(日) 三百回記念史跡巡り・卯之助の力石を諏訪に訪ねる

《長野県の現地の新聞に大々的に取り上げられる！》

平成14年6月30日(日) 歴史講演会「平田篤胤と越谷出身の妻おりせ」

平成14年8月24日(土) 歴史講演会「県東部を中心とした仏像」

平成14年9月8日(日) 歴史講座「『飛鳥・藤原京展』事前勉強会」

平成14年9月11日(水) 第304回 史跡めぐり「秩父札所めぐり ①」

平成14年10月11日(金) 第306回 史跡めぐり「秩父札所めぐり ②」

平成14年11月12日(火) 第308回 史跡めぐり「秩父札所めぐり ③」

◎会報「古志賀谷」の隔年の発行(B5版、百十～百五十頁程度)

内容は主に会員による郷土の調査・研究の報告や随想の寄稿文などです。

昨年6月に会報「古志賀谷」十一号が全会員に無料配布されました。

※なお以上の他に、越谷市社会福祉協議会への寄付活動なども行ってきました。

郷土研究会にお入りになりますと

◎すべてのイベントの案内が受け取れます。

せっかくよい行事があったのに知らなかった、ということがありません。

◎会員だけのための特別行事に参加できます。

郷土研究会の会員限定イベント、例えばバス史跡めぐり等にも参加できます。

郷土研究会にお入りになるには

◎会費は、年間2千円(4月～翌年3月、会報・諸案内状・諸会議費等)です。

どなたでも気楽に入会できます。市外の方でも歓迎致します。

◎申し込みは、はがきに「平成何年度より入会」とお書きのうえ、住所・氏名・

電話番号を記入し、下記までお寄せ下さい。

または、当会の各種行事の際に、郷土研究会役員までお申し込み下さい。

☎343-0806 越谷市 宮本町 3-117-8 谷岡隆方
越谷市郷土研究会
☎048-962-7527

古代蓮



遠景はキャンベルタウン野鳥の森